

第1回三種町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 会議要旨

- 1 日 時 令和元年5月17日（金）午後2時
 - 2 場 所 三種町役場本庁 第1会議室
 - 3 出席者 ※委員15名中、12名出席
 - (1) 委 員 篠田委員、藤原委員、阿部委員、佐々木（孝）委員、袴田委員
床田委員、佐藤委員、相原委員、島田委員、水野委員、大山委員
佐々木（洋）委員
 - (2) アドバイザー NPO法人日本地域福祉研究所 理事
日本社会事業大学社会福祉学部 准教授 菱沼 幹男氏
 - (3) 事務局 加賀谷福祉課長、清水福祉課長補佐
池内社協事務局長、安達社協事務局次長
 - (4) 作業部会員 11名
 - 4 全体進行
 - (1) 委嘱状交付
 - (2) 町長あいさつ
 - (3) 委員及びアドバイザー紹介
 - (4) 案 件
 - ①委員長及び副委員長の選任について
・・・ 委員長に篠田委員、副委員長に大山委員を選任
 - ②地域福祉計画・地域福祉活動計画について
・・・ 事務局より資料1～3に基づいて説明（省略）
 - ③策定スケジュールについて
・・・ 事務局より資料4に基づいて説明（省略）
- 【質疑等の概要】
- 〔委 員〕 3カ月かけて評価を行う予定だが、評価の指標となる数値はあるのか。推進項目について評価を行っていくのか。
- 〔事務局〕 数値に表しづらい部分もあり、数値目標の形はとっていない。推進項目の1つ1つについて、関係職員が質的評価を行っていく。
- 〔委 員〕 次期計画に繋がっていくようにしっかりとやってほしい。
- 〔委 員〕 支援を受けている側からの評価はあるのか。当事者の満足度という視点も重要。
- 〔事務局〕 専門職アンケートを予定。住民ニーズに近いところで活動している人へのアンケートを通じて間接的に利用者の声を反映させる。

〔委 員〕 サービスは受け手の感じ方が大事で、これを元に第3期計画に進んでいくべきだと思う。

〔事務局〕 多様な意見を吸い上げられるようにしていきたい。

(5) 講 話 アドバイザー 菱沼先生

「地域福祉に関する国の動向と地域福祉計画・地域福祉活動計画の役割」

・・・ レジュメに基づいて説明（省略）

【質疑等の概要】

〔委 員〕 福祉は、国・地域の経済状況によって影響を受ける。今のように経済状態が悪いと公助の部分が狭められて、その間を埋める共助・互助の部分、いわゆるソーシャルキャピタルの強化が重要になってくる。自助と公助の間を埋める互助・共助の部分にどう取り組んでいけばよいのか。

〔講 師〕 ソーシャルキャピタルは、人々の繋がりがどれくらいあるかが、人々の幸福感に影響があるという概念。三種町について考えたときに、地域の支えといっても高齢化や若者が減ってきている状況で、地域に暮らしている人だけでなく、この地域に働きに来ている人とどう繋がっていくか、企業の社会貢献活動や学校の福祉教育と地域の人々の活動をどう結び付けていくかというような視点が大事。地域の人が話し合える場を作ったりとか、ソーシャルキャピタルを地域で育てていくのが大事。

〔委 員〕 昔は、青年会とか婦人会の活動がしっかりしていて地域を支えていたと思うが、そういったものの復活に向けた働きかけがあると、互助・共助の部分がボトムアップで出来ていくのではないかな。

〔講 師〕 どの地域でもそうした活動が減っている。子ども会ですら減っている状況。青年会、婦人会というような名称でなくても、NPOのような形で、お母さんたちの子育てのグループや若者のグループがNPOを立ち上げていくとか、形を変えたものの方が繋がりやすい気がする。

〔委 員〕 コーヒーサロンという形で、町内のあちこちで活動がある。一人暮らしの男性などの利用もあり、食事や健康の面などでサポートの役目を果たしている。

〔委 員〕 地域の問題を考えるような会、お助け会のようなものができて、様々な職種の方が集まって、そこから改善に向けて動いていく、町にも提案していく、そのような会を設立していったらどうかという趣旨と捉えたが、そういうものが形作られていったらと思う。

〔委 員〕 「制度の狭間」というお話があったが、具体例は。

〔講 師〕 介護保険のヘルパーの支援では、庭の草取りやペットの世話などはできないが、その人にとっては必要なこと。

- 〔事務局〕 実際、ペットがいるから施設に行けないというケースもある。狭間の問題もそうだが、複合多問題ということで、高齢や障がいの問題が複合的に絡み、悩ましいケースもある。
- 〔委員〕 社会福祉法が改正されて、児童や高齢者、障がい者を横断的に取り巻いて地域づくりをしていく仕組みづくりが必要になると思うが、社会福祉法人にとっての好事例があったら紹介を。
- 〔講師〕 ある地域だと、住民組織である地区社協に施設の一画を場所として提供したり、外出するための足がないという地域で、デイサービスの車両を提供したり、あるいは学習支援の場所として提供したりといったように、その地域の住民の困っているところに向き合っていくと面白いものが出てくる。施設への理解を得るためにも、地域の方と接点を持つことは大事。
- 〔委員〕 先日テレビで、高齢者の食育が大きな問題になると指摘されていたが。
- 〔委員〕 「サルコペニア」とか「フレイル」という言葉を聞かれるようになってきたが、高齢者はタンパク質をとって筋肉を付けることが大切。腎臓の働きが弱いと気を付けないといけないが、普段の健康管理をきちんとし、今の自分がどれくらいにとっていいのかかかりつけ医に相談しながら、肉や魚をしっかりとっていただきたい。
- 〔講師〕 一人暮らしの方は生活習慣病になりやすいというデータもあって、おかずの種類が減ってしまうということも言われている。みんなで持ち寄って食べる場を作ることも健康増進に繋がるかもしれない。
- 〔委員〕 健康あきた21計画の中にも「孤食の防止」が一つの目標に挙げられている。
- 〔委員〕 私たちのクリニックには、不登校、ひきこもりの若者が入っているが、その子たちの活動で「しあわせ食堂」というのをやっている。都会の子ども食堂の高齢者版だが、民生委員の皆さんにも協力いただいて、子どもたちが調理して、一緒に食べるという活動を3年前から始めた。三種町には孤食の状態にある方が1000人以上いると言われていて、協力して地域でやったださる団体を5団体まで、最終的には20まで広げたい。地域で孤食の方を集めてみんなで食事できるようになると良いし、余った食材などをうまく回せば、無駄もなくなるし地域の活性化に繋がる。引きこもっていた若者たちの達成感にも繋がる。

以 上